

令和3年度（令和4年度実施）事務事業評価表【C表】

事業整理番号 0603 - 05

事務事業名	資源回収事業	担当組織	環境清掃部	ごみ減量推進課
-------	--------	------	-------	---------

事業特性											
	事業開始年度	26年度以前	事業終了年度		計画／一般	計画事業	計画事業No.	5	3	1	2
	単独／補助	区単独事業	運営形態	全部業務委託							
事業を構成する予算事業	① 資源回収事業経費				②						

政策体系（令和3年度基本計画）									
地域づくりの方向	みどりのネットワークを形成する環境のまち				政策	ごみ減量・清掃事業の推進			
施策	_3Rの推進【重点】				施策番号	5-3-1 関連する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標			
施策の目標	ごみの発生抑制、使わなくなったものの再使用、ごみと資源の分別徹底について、より一層の普及啓発を行います。								

1. 事業の概要

事業の目的・概要	実施の対象（具体的に記載）	区民								
	事業の目的・期待する効果	区民の分別排出の協力のもと、質の高いリサイクルを実現し、限りある資源の有効活用を図る。								
	事業概要	ごみの減量を図るため、8品目12分別による資源回収（週2回）を実施。								
基礎データ （事業のための資産利用者等の情報）	8品目（古紙・牛乳パック・古布・びん・かん・ペットボトル・ボトルタイプのプラ容器・食品トレー） 12分別（新聞・雑誌・段ボール・厚紙製の箱・包装紙・牛乳パック・古布・びん・かん・ペットボトル・ボトルタイプのプラ容器・食品トレー）									
事業目標の達成状況	成果指標 （事業目標の達成度）	指標	目指す方向性	単位	元年度（実績）	2年度（実績）	3年度目標（計画）	3年度（実績）	4年度（計画値）	
		① 年間ごみ量（可燃・不燃・粗大）	↘	トン	55,992	56,725	54,446	54,416	53,763	
		② 区民一人一日当たりのごみ量（可燃・不燃・粗大）	↘	グラム	528	541	513	524	505	
	③									
	指標の説明	①各種ごみの収集量合計 ②上記「①」÷（10月1日現在人口）÷365日								
未達成の状況	一部未達成	未達成または一部未達成の理由	新型コロナウイルス感染症の影響等により、ごみの削減量が一般廃棄物処理基本計画策定時よりも鈍化している。							
事業の取組実績	3年度の取組内容	8品目12分別による資源回収（週2回）を実施。								
	活動指標 （事業の実施状況）	指標	目指す方向性	単位	元年度（実績）	2年度（実績）	3年度目標（計画）	3年度（実績）	4年度（計画値）	
		① 資源回収量（可燃系）	→	トン	5,482	5,942	5,196	5,741	5,941	
		② 資源回収量（不燃系）	→	トン	4,791	5,300	4,700	5,218	5,300	
	③									
指標の説明	①新聞、雑誌、段ボール、厚紙製の箱、包装紙、牛乳パック、古布類の可燃系資源の回収量 ②びん、かん、ペットボトル、トレー、プラスチック容器（ボトルタイプ）の不燃系資源の回収量									
未達成の状況	達成	未達成または一部未達成の理由								

2. 事業費の推移

単位 （金額の項目：千円 人数の項目：人）	元年度	2年度	3年度			4年度		
	決算	決算	予算	決算	執行率	予算	増減（R3決算比）	
事業費	A	517,559	532,046	547,522	534,587	97.6%	580,822	46,235
人件費	【正規（人数）】	(1.05)	(1.05)	—	(1.00)		(1.00)	—
	【会計年度任用職員等（人数）】			—				—
	人件費 B	B	8,925	8,925	—	8,500		8,500
事業費（人件費含む）	C=A+B	526,484	540,971	—	543,087		589,322	46,235
財源内訳	国、都支出金							0
	使用料・手数料							0
	地方債・その他		100,883	83,311	128,603	138,533		128,603
一般財源	E=C-D	425,601	457,660	—	404,554		460,719	56,165

3. 総合評価

【指標の達成状況(A)】
S、A、B、C、Dの5段階で評価 ⇒ **B** 根拠 新型コロナウイルス感染症などの影響により資源回収量の変動はあるが、適正な資源化処理を行っている。

※前ページの指標の達成状況及び下の確認事項の内容を踏まえ、齟齬がないよう評価及び根拠欄を記載してください。
※「A」評価は、成果指標及び活動指標の両方が目標以上達成であることを基準として、「指標に表れない成果」を加味して評価してください。
※「A」評価のレベルを大幅に超えた場合のみ「S」評価としてください。「指標に表れない成果」も考慮の対象です。

(1) 成果と課題

① 指標に表れない成果

回収した資源の売却が区の歳入となっている。

② 目標に対する成果状況を踏まえた課題

質の高いリサイクルを推進するため、区民へ分別方法や分別することの重要性などの周知を行っていく必要がある。
--

【効率的な実施への意識(B)】
S、A、B、Cの4段階で評価 ⇒ **B** 根拠 委託業者との連携により回収効率が向上している。

※下の確認事項の内容を踏まえ、齟齬がないよう評価及び根拠欄を記載してください。
※過去3年間に何らかの改善を行い、事業を大きく前進させる成果があった場合のみ「S」評価としてください。(小幅な改善は含みません。)

(2) 効率的な実施への意識

① 現状の実施状況及び実施手法に対する認識

事業の中に時代の変化や環境変化に合わなくなったものはあるか。	無	選択の理由	持続可能な循環型社会形成のために必要なため
直営や委託等の様々な手法を比較検討しているか。	有	選択の理由	すでに全面委託により実施している。
(委託の場合) 事業者見積を鵜呑みにせずコスト削減に努めているか。	有	選択の理由	事業者の履行状況を確認し経費は適正に判断し、価格交渉も実施している。
執行率は適正か。 ※「適正ではない」場合はその対策も理由欄に記載。	適正	選択の理由	執行率97.6%
統合した方が効率的にできる可能性のある事業はあるか。	無	(有の場合) 事業名	

② 「目標に対する成果の状況を踏まえた課題(3-(1)-②)」についての改善の取り組み

過去3年間に改善を行った。	いいえ	はい	取組内容及び効果	予算措置			
改善の予定	有	無	改善の予定がない理由				
改善の内容	有	無	「有」の場合	予算を伴わない実施との比較検討	予算措置を伴う理由	予算時期	未定
改善の内容	有	無	「有」の場合	予算を伴わない実施との比較検討	予算措置を伴う理由		

③ 事務改善(事務効率化)の余地

効率化の余地	無	無	余地のない理由	効率的な配車台数と回収ルートで回収作業を行い、適正な処理を行っている。			
効率化の内容	有	無	「有」の場合	予算を伴わない実施との比較検討	予算措置を伴う理由	予算時期	
効率化の内容	有	無	「有」の場合	予算を伴わない実施との比較検討	予算措置を伴う理由		

【区が実施する必要性(C)】
S、A、B、Cの4段階で評価 ⇒ **A** 根拠 限りある資源の有効活用のために必要不可欠な事業であり、プラスチック等の更なる資源化によるごみの減量が求められている。

※下の確認事項を踏まえ、齟齬がないよう評価及び根拠欄を記載してください。
※「区の他の事業より注力すべき事業」または「区民ニーズが大幅に増加している」の場合のみ「S」評価としてください。

(3) 必要性/優先度

① 区が実施する理由(複数選択可)

区の他の事業より注力すべき事業である。 ※部の主要課題のうち、特に優先すべき事業の場合チェック		法律の要請を受けて行う事業である。
民間事業者等に同様のサービスがない。		その他(理由)

② 区民ニーズ

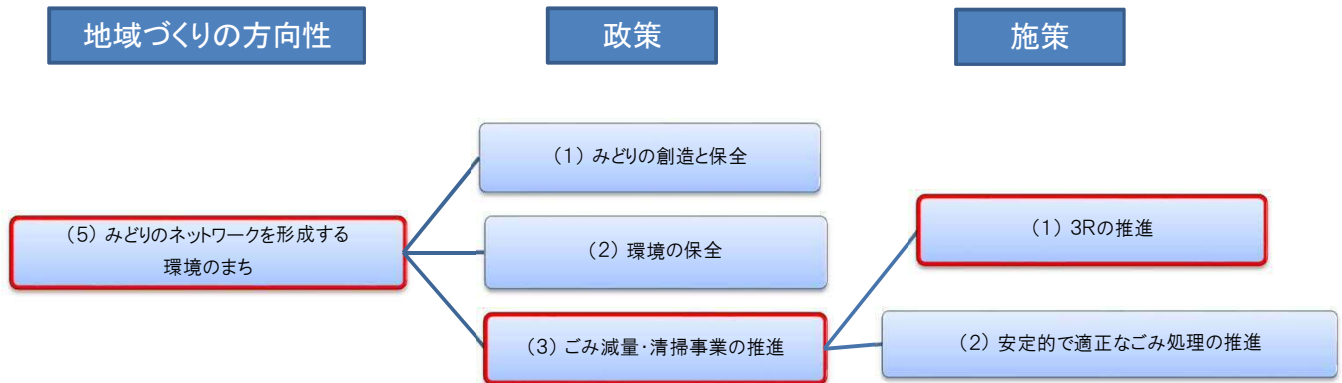
区民ニーズを表す指標	無	有	指標番号(活動)	指標番号(成果)	サービス利用者数
「有」「無」ともに記入			推移	推移	
区民ニーズに対する認識	ごみ収集と資源回収は区民生活に欠かせない事業である				

総合評価(D=A+B+C)	ランク3		
今後の事業費予算要望(E)	増額	根拠	資源回収量の増加、人件費や車両価格の増による。
今後の事業の方向性(D+E) (現状の評価および施策評価を踏まえた評価)	A':改善・継続	Dの場合	→ 終了の理由
《上記判断を踏まえた所管課の認識》			

令和5年度以降、プラスチック資源回収を導入し、さらなるごみの減量と資源の有効活用につなげていく。

資源回収事業経費

1. 事業の位置付け【基本計画(2016-2025)における位置付け】



2. 事業の概要

事業概要	単独・補助	区単独事業	事業開始年度	平成20年度
	運営形態	全部業務委託	他区の状況	23区中23区実施
これまでの経緯	・平成20年10月 資源回収開始（週2回8品目12分別） ・平成30年4月 池袋駅周辺繁華街地区の資源回収開始			

3. 公会計情報

①貸借対照表

(千円)

勘定科目	2年度	3年度	増減	勘定科目	2年度	3年度	増減
資産	0	0	—	負債	0	0	—
土地	0	0	—	地方債	0	0	—
建物	0	0	—	その他負債	0	0	—
減価償却累計額	0	0	—	純資産	0	0	—
その他資産	0	0	—	純資産	0	0	—

資産科目の詳細	負債科目の詳細
資産計上なし	負債計上なし

②行政コスト計算書

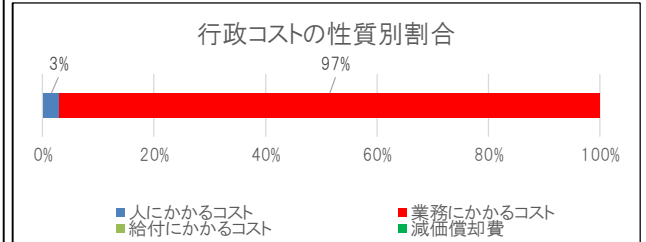
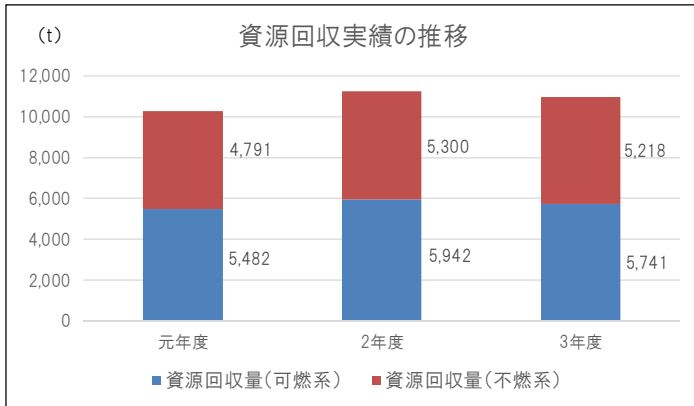
(千円)

勘定科目	2年度	3年度	増減	勘定科目	2年度	3年度	増減
コスト	549,145	551,732	2,587	収入	83,311	138,533	55,222
人にかかるコスト	17,099	17,144	45	国・都支出金	0	0	0
業務にかかるコスト	532,046	534,588	2,542	使用料・手数料	0	0	0
給付にかかるコスト	0	0	0	その他収入	83,311	138,533	55,222
減価償却費	0	0	0	純行政コスト	465,834	413,199	△ 52,635

コストの詳細	収入の詳細
【人にかかるコスト】本事業に携わる職員の給料、手当、引当金等 【業務にかかるコスト】資源ごみ回収に係る委託料	【その他収入】回収資源の売払い収入等

4. 行政サービスの実績とコスト分析

取組実績	指標	単位	30年度 (実績)	元年度 (実績)	2年度 (実績)	3年度 (目標値)	3年度 (実績)	4年度 (計画値)
	資源回収量(可燃系)	t	5,453	5,482	5,942	5,196	5,741	5,942
資源回収量(不燃系)	t	4,768	4,791	5,300	4,700	5,218	5,300	



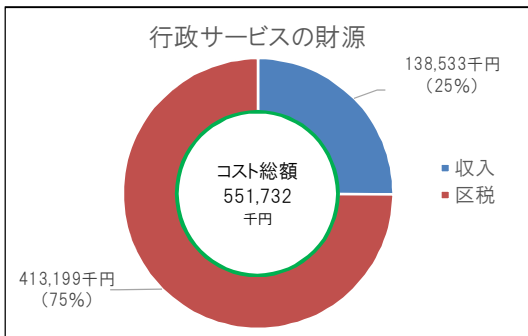
事業に携わる職員数

	元年度	2年度	3年度
正規職員	1.1人	1.1人	1.0人
再任用職員	0人	0人	0人
非常勤職員	0人	0人	0人
再雇用職員	0人	0人	0人
臨時職員	0人	0人	0人
会計年度任用職員	0人	0人	0人

資産(土地・建物)の分析

資産の概要		
資産計上なし		
資産老朽化比率		(千円)
取得価格(A)	建物取得時に支払った額	—
減価償却累計額(B)	これまでの利用で償却した建物価格	—
現存価格(A-B)	現時点で残存する建物価格	—
資産老朽化比率(B/A)	当建物の老朽化の進み具合	—

5. 行政サービスの財源と単位当たりコスト



(円)

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト
資源回収量(可燃系・不燃系)	t	元年度	10,273	42,601
		2年度	11,242	41,437
		3年度	10,959	37,704

他自治体のコスト情報

【北区】びん・缶回収事業費
 総事業費/びん・缶回収量※2 → 259,992千円/3,561トン = 71,888円

※1 北区HP掲載「平成30年度 事務事業評価シート」より
 ※2 北区は不燃系資源(びん・缶)のみ回収。
 北区の集積所数は5,200か所。(豊島区は2万2000か所)

6. 公会計情報から見える課題と今後の取組について

資源回収事業は自治体によって回収品目・回収箇所数が異なるため、他自治体との単純比較は行えない。
 平成30年度までは、資源の回収量が減少傾向にあったが、令和元年度、特に2年度は新型コロナウイルス感染症の流行と緊急事態宣言等の発令、テレワークの増加等もあり増加したが、令和3年度は令和元年度と同程度の水準に戻った。なお、回収量が減少しても、直ちに集積所箇所数の削減や収集頻度を減らすまでには至っておらず、資源回収委託料(行政コストの97%)については現行の事業規模を維持していく以上コスト削減の余地は少ない。
 また、人件費や燃料費の増大による処理費用の高騰によって、コストは今後増加していくことが予測される。
 今後ごみの減量と環境負荷の低減を図るため、新たな品目の資源化などの検討を進めていく必要があるが、検討に当たっては費用対効果を精査するなど事業コストに十分留意しながら進めていく。

令和3年度（令和4年度実施）事務事業評価表【C表】

事業整理番号 O604 - 04

事務事業名	廃棄物収集作業	担当組織	環境清掃部	豊島清掃事務所
-------	---------	------	-------	---------

事業特性											
	事業開始年度	26年度以前	事業終了年度		計画／一般	計画事業	計画事業No.	5	3	2	1
	単独／補助	区単独事業	運営形態	一部業務委託							
事業を構成する予算事業	①	廃棄物収集作業経費			②						

政策体系（令和3年度基本計画）										
地域づくりの方向	みどりのネットワークを形成する環境のまち				政策	ごみ減量・清掃事業の推進				
施策	安定的で適正なごみ処理の推進				施策番号	5-3-2 関連する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標				
施策の目標	最終処分場の延命化や環境負荷の低減に向けて、安定的で適正なごみ処理を効率的に推進します。									

1. 事業の概要

事業の目的・概要	実施の対象（具体的に記載）	区民								
	事業の目的・期待する効果	家庭ごみの適正処理により、衛生環境の保全と環境負荷の低減を図る。								
	事業概要	区民が排出する家庭ごみの収集運搬を確実かつ効率的に行う。								
基礎データ（事業のための資産利用者等の情報）	年度末現在（翌年度4月1日現在）の住民登録者数 元年度:289,776人 2年度:286,596人 3年度:283,595人									
事業目標の達成状況	成果指標（事業目標の達成度）	指標	目指す方向性	単位	元年度（実績）	2年度（実績）	3年度目標（計画）	3年度（実績）	4年度（計画値）	
		①	ごみの収集が円滑に行われており街がきれいに保たれている	↗	満足度が高い(%)	55	57.2	58	62.2	63
		②								
	指標の説明	①「協働のまちづくりに関する区民意識調査」より、「ごみの収集が円滑に行われており街がきれいに保たれている」の項目に対して「どちらかというと思う」と回答した数値（2年度までは「地域実態に応じたごみの効率的な収集・運搬業務が行われている」の項目に同様に回答した数値）								
未達成の状況	達成	未達成または一部未達成の理由								
事業の取組実績	3年度の取組内容	<p>【可燃ごみ収集体制】</p> <p>月・火・水曜日・・・小型プレス車21台 + 大型車2台、小型特殊車3台、軽ダンプ車11台（※水曜日は軽ダンプ車7台）体制で収集 ＊R2から小型プレス車1台減車</p> <p>木・金・土曜日・・・小型プレス車16台 + 大型車2台、小型特殊車3台、軽ダンプ車10台（※土曜日は軽ダンプ車7台）体制で収集</p> <p>【不燃ごみ収集体制】</p> <p>委託車両（作業員付雇上）8台体制で収集</p>								
	活動指標（事業の実施状況）	指標	目指す方向性	単位	元年度（実績）	2年度（実績）	3年度目標（計画）	3年度（実績）	4年度（計画値）	
		①	可燃ごみ量	↘	トン	51,662	52,343	50,155	50,401	49,402
		②	不燃ごみ量	↘	トン	1,733	1,799	1,656	1,502	1,618
指標の説明	①年度における可燃ごみ収集量 ②同不燃ごみ収集量									
未達成の状況	未達成	未達成または一部未達成の理由 コロナ禍の行動制限等により家庭内でごみが発生する機会が増えたことが要因として考えられる。								

2. 事業費の推移

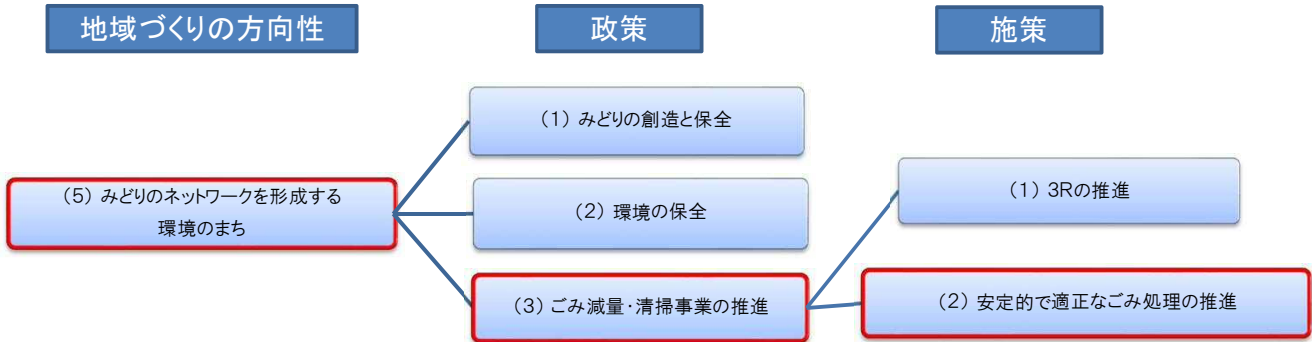
単位 （金額の項目：千円 人数の項目：人）	元年度	2年度	3年度			4年度			
	決算	決算	予算	決算	執行率	予算	増減（R3決算比）		
事業費	A	543,507	541,261	550,909	522,928	94.9%	588,579	65,651	
人件費	【正規（人数）】	(65.00)	(62.00)	—	(60.00)		(58.00)	—	
	【会計年度任用職員等（人数）】	(10.00)	(27.00)	—	(24.00)		(21.00)	—	
	人件費 B	B	588,500	624,200	—	596,400		568,600	-27,800
事業費（人件費含む）	C=A+B	1,132,007	1,165,461	—	1,119,328		1,157,179	37,851	
財源内訳	国、都支出金	0	0	0	0		0	0	
	使用料・手数料	D	192,690	174,593	48,197	10,666		142,844	132,178
	地方債・その他		5,959	222	360	180		360	180
	一般財源	E=C-D	933,358	990,646	—	1,108,482		1,013,975	-94,507

3. 総合評価

(1) 成果と課題	【指標の達成状況(A)】 S、A、B、C、Dの5段階で評価 ⇒	B	根拠	区民意識調査の満足度が高まり3年度目標を達成したが、新型コロナの影響もあり可燃ごみの収集量は目標を達成できなかった。																												
	※前ページの指標の達成状況及び下の確認事項の内容を踏まえ、齟齬がないよう評価及び根拠欄を記載してください。 ※「A」評価は、成果指標及び活動指標の両方が目標以上達成であることを基準として、「指標に表れない成果」を加味して評価してください。 ※「A」評価のレベルを大幅に超えた場合のみ「S」評価としてください。「指標に表れない成果」も考慮の対象です。																															
① 指標に表れない成果																																
豊島清掃事務所でコロナウイルス陽性者や濃厚接触者が発生したが、予防接種や種々の感染防止対策を徹底し収集体制を維持した。																																
② 目標に対する成果状況を踏まえた課題																																
ごみの収集が確実に行われることはもとより、効率的に実施され、住民が参加しやすく負担に納得できるサービスとして事業が理解される必要がある。																																
(2) 効率的な実施への意識	【効率的な実施への意識(B)】 S、A、B、Cの4段階で評価 ⇒	B	根拠	部分的な委託を拡大しながら、職員退職による作業能力の不足を会計年度任用職員の活用で補足するなど、効率的な収集運搬を行っている。																												
	※下の確認事項の内容を踏まえ、齟齬がないよう評価及び根拠欄を記載してください。 ※過去3年間に何らかの改善を行い、事業を大きく前進させる成果があった場合のみ「S」評価としてください。(小幅な改善は含みません。)																															
① 現状の実施状況及び実施手法に対する認識																																
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:30%;">事業の中に時代の変化や環境変化に合わなくなったものはあるか。</td> <td style="width:10%; text-align:center;">無</td> <td style="width:10%;">選択の理由</td> <td colspan="2">コロナ禍での生活様式の変化がごみ量に影響を与えている。</td> </tr> <tr> <td>直営や委託等の様々な手法を比較検討しているか。</td> <td style="text-align:center;">有</td> <td>選択の理由</td> <td colspan="2">ごみ量の見込みや住民の生活様式の変化等を中長期的に分析・予測し、直営と委託の効率的な組合せを毎年行っている。</td> </tr> <tr> <td>(委託の場合)事業者見積を鵜呑みにせずコスト削減に努めているか。</td> <td style="text-align:center;">有</td> <td>選択の理由</td> <td colspan="2">委託単価については二十三区統一だが、車両台数や運用を毎年見直しながら事業を行っている。</td> </tr> <tr> <td>執行率は適正か。 ※「適正ではない」場合はその対策も理由欄に記載。</td> <td style="text-align:center;">適正</td> <td>選択の理由</td> <td colspan="2">毎年90%以上の高い執行率である。</td> </tr> <tr> <td>統合した方が効率的にできる可能性のある事業はあるか。</td> <td style="text-align:center;">無</td> <td>(有の場合)事業名</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>					事業の中に時代の変化や環境変化に合わなくなったものはあるか。	無	選択の理由	コロナ禍での生活様式の変化がごみ量に影響を与えている。		直営や委託等の様々な手法を比較検討しているか。	有	選択の理由	ごみ量の見込みや住民の生活様式の変化等を中長期的に分析・予測し、直営と委託の効率的な組合せを毎年行っている。		(委託の場合)事業者見積を鵜呑みにせずコスト削減に努めているか。	有	選択の理由	委託単価については二十三区統一だが、車両台数や運用を毎年見直しながら事業を行っている。		執行率は適正か。 ※「適正ではない」場合はその対策も理由欄に記載。	適正	選択の理由	毎年90%以上の高い執行率である。		統合した方が効率的にできる可能性のある事業はあるか。	無	(有の場合)事業名					
事業の中に時代の変化や環境変化に合わなくなったものはあるか。	無	選択の理由	コロナ禍での生活様式の変化がごみ量に影響を与えている。																													
直営や委託等の様々な手法を比較検討しているか。	有	選択の理由	ごみ量の見込みや住民の生活様式の変化等を中長期的に分析・予測し、直営と委託の効率的な組合せを毎年行っている。																													
(委託の場合)事業者見積を鵜呑みにせずコスト削減に努めているか。	有	選択の理由	委託単価については二十三区統一だが、車両台数や運用を毎年見直しながら事業を行っている。																													
執行率は適正か。 ※「適正ではない」場合はその対策も理由欄に記載。	適正	選択の理由	毎年90%以上の高い執行率である。																													
統合した方が効率的にできる可能性のある事業はあるか。	無	(有の場合)事業名																														
② 「目標に対する成果の状況を踏まえた課題(3-(1)-②)」についての改善の取り組み																																
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:15%;">過去3年間に改善を行った。</td> <td style="width:15%; text-align:center;">はい</td> <td style="width:15%; text-align:center;">はい</td> <td style="width:20%;">取組内容及び効果</td> <td style="width:20%;">令和3年度から可燃ごみ収集においても作業員付雇上車両を導入し、直営体制の効率化を進めている。</td> <td style="width:10%;">予算措置</td> <td style="width:5%; text-align:center;">有</td> </tr> <tr> <td>改善の予定</td> <td style="text-align:center;">無</td> <td>改善の予定がない理由</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>改善の内容</td> <td colspan="4"></td> <td>予定時期</td> <td></td> </tr> <tr> <td>予算措置</td> <td style="text-align:center;">有</td> <td>「有」の場合</td> <td>予算を伴わない実施との比較検討</td> <td>予算措置を伴う理由</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>					過去3年間に改善を行った。	はい	はい	取組内容及び効果	令和3年度から可燃ごみ収集においても作業員付雇上車両を導入し、直営体制の効率化を進めている。	予算措置	有	改善の予定	無	改善の予定がない理由					改善の内容					予定時期		予算措置	有	「有」の場合	予算を伴わない実施との比較検討	予算措置を伴う理由		
過去3年間に改善を行った。	はい	はい	取組内容及び効果	令和3年度から可燃ごみ収集においても作業員付雇上車両を導入し、直営体制の効率化を進めている。	予算措置	有																										
改善の予定	無	改善の予定がない理由																														
改善の内容					予定時期																											
予算措置	有	「有」の場合	予算を伴わない実施との比較検討	予算措置を伴う理由																												
③ 事務改善(事務効率化)の余地																																
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:15%;">効率化の余地</td> <td style="width:15%; text-align:center;">有</td> <td style="width:15%; text-align:center;">無</td> <td style="width:20%;">余りのない理由</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>効率化の内容</td> <td colspan="4">収集運搬に係る計画調整的業務や住民折衝業務は職員により実施し、収集作業は委託を活用して効率化を進める。</td> <td>予定時期</td> <td style="text-align:center;">実施中</td> </tr> <tr> <td>予算措置</td> <td style="text-align:center;">有</td> <td>「有」の場合</td> <td>予算を伴わない実施との比較検討</td> <td>有</td> <td>予算措置を伴う理由</td> <td>委託を進めることで人件費は低減するが、事業費は増加する。</td> </tr> </table>					効率化の余地	有	無	余りのない理由				効率化の内容	収集運搬に係る計画調整的業務や住民折衝業務は職員により実施し、収集作業は委託を活用して効率化を進める。				予定時期	実施中	予算措置	有	「有」の場合	予算を伴わない実施との比較検討	有	予算措置を伴う理由	委託を進めることで人件費は低減するが、事業費は増加する。							
効率化の余地	有	無	余りのない理由																													
効率化の内容	収集運搬に係る計画調整的業務や住民折衝業務は職員により実施し、収集作業は委託を活用して効率化を進める。				予定時期	実施中																										
予算措置	有	「有」の場合	予算を伴わない実施との比較検討	有	予算措置を伴う理由	委託を進めることで人件費は低減するが、事業費は増加する。																										
(3) 必要性/優先度	【区が実施する必要性(C)】 S、A、B、Cの4段階で評価 ⇒	B	根拠	一般廃棄物の処理は自治体の責務であり、23区は雇上委託を活用した各区直営方式により収集運搬を実施している。																												
	※下の確認事項を踏まえ、齟齬がないよう評価及び根拠欄を記載してください。 ※「区の他の事業より注力すべき事業」または「区民ニーズが大幅に増加している」の場合のみ「S」評価としてください。																															
① 区が実施する理由(複数選択可)																																
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%;"> 区の他の事業より注力すべき事業である。 ※部の主要課題のうち、特に優先すべき事業の場合チェック </td> <td style="width:50%; text-align:center;">○</td> <td>法律の要請を受けて行う事業である。</td> </tr> <tr> <td>民間事業者等に同様のサービスがない。</td> <td colspan="2" style="text-align:center;">○</td> <td>その他(理由)</td> </tr> </table>					区の他の事業より注力すべき事業である。 ※部の主要課題のうち、特に優先すべき事業の場合チェック	○	法律の要請を受けて行う事業である。	民間事業者等に同様のサービスがない。	○		その他(理由)																					
区の他の事業より注力すべき事業である。 ※部の主要課題のうち、特に優先すべき事業の場合チェック	○	法律の要請を受けて行う事業である。																														
民間事業者等に同様のサービスがない。	○		その他(理由)																													
② 区民ニーズ																																
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:15%;">区民ニーズを表す指標</td> <td style="width:15%; text-align:center;">有</td> <td style="width:15%; text-align:center;">有</td> <td style="width:10%;">指標番号(活動)</td> <td style="width:10%;">指標番号(成果)</td> <td style="width:10%; text-align:center;">①</td> <td style="width:10%;">サービス利用者数</td> <td style="width:15%; text-align:center;">50名以上</td> </tr> <tr> <td>「有」「無」ともに記入</td> <td colspan="2"></td> <td>推移</td> <td>推移</td> <td style="text-align:center;">増加</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>区民ニーズに対する認識</td> <td colspan="7">廃棄物の収集運搬は公衆衛生に直接関係し、また全ての住民が利用するサービスのため安定的に実施すべき事業である。</td> </tr> </table>					区民ニーズを表す指標	有	有	指標番号(活動)	指標番号(成果)	①	サービス利用者数	50名以上	「有」「無」ともに記入			推移	推移	増加			区民ニーズに対する認識	廃棄物の収集運搬は公衆衛生に直接関係し、また全ての住民が利用するサービスのため安定的に実施すべき事業である。										
区民ニーズを表す指標	有	有	指標番号(活動)	指標番号(成果)	①	サービス利用者数	50名以上																									
「有」「無」ともに記入			推移	推移	増加																											
区民ニーズに対する認識	廃棄物の収集運搬は公衆衛生に直接関係し、また全ての住民が利用するサービスのため安定的に実施すべき事業である。																															
総合評価(D=A+B+C)		ランク3																														
今後の事業費予算要望(E)		増額	根拠	委託を進めることで人件費は低減するが、事業費は増加する。																												
今後の事業の方向性(D+E) (現状の評価および施策評価を踏まえた評価)		A': 改善・継続																														
《上記判断を踏まえた所管課の認識》		Dの場合 → 終了の理由																														
ごみの収集作業を効率的に実施するため、委託できる部分は委託を拡大し、職員はその作業のコントロールや高齢者等出前収集、動物死体収集等住民からの依頼による個別直接の収集等を引き続き行っていくとともに、住民の集積所の廃止・分散や住民間の調整の要望に迅速柔軟に対応していく。																																

廃棄物収集作業経費

1. 事業の位置付け【基本計画(2016-2025)における位置付け】



2. 事業の概要

事業概要	単独・補助	区単独事業	事業開始年度	12年度
	運営形態	一部業務委託	他区の状況	23区中23区実施
これまでの経緯	・平成11年6月 豊島清掃工場竣工 ・平成12年4月 清掃事業区移管、東京二十三区清掃一部事務組合設置 ・平成21年3月 廃プラスチックのサーマルリサイクル本格実施 ・平成30年4月 池袋繁華街エリアの品目別曜日収集開始			

3. 公会計情報

①貸借対照表

(千円)

勘定科目	2年度	3年度	増減	勘定科目	2年度	3年度	増減
資産	0	0	—	負債	0	0	—
土地	0	0	—	地方債	0	0	—
建物	0	0	—	其他負債	0	0	—
減価償却累計額	0	0	—	純資産	0	0	—
其他資産	0	0	—	純資産	0	0	—

資産科目の詳細	負債科目の詳細
資産計上なし	負債計上なし

②行政コスト計算書

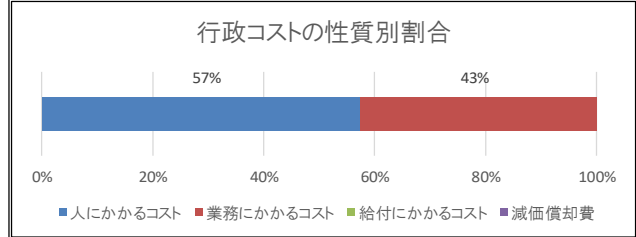
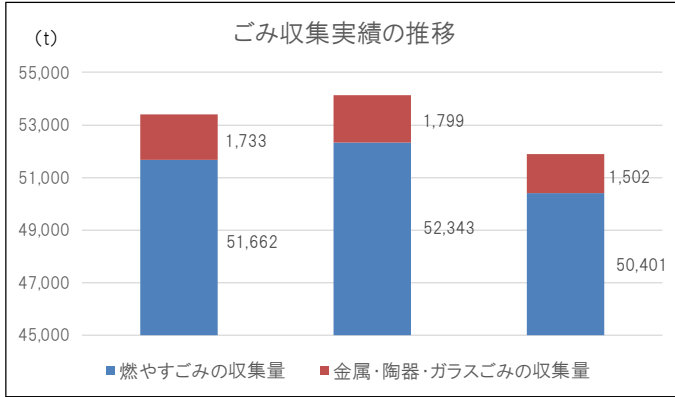
(千円)

勘定科目	2年度	3年度	増減	勘定科目	2年度	3年度	増減
コスト	1,227,877	1,226,616	△ 1,261	収入	174,815	10,847	△ 163,968
人にかかるコスト	686,616	703,688	17,072	国・都支出金	0	0	0
業務にかかるコスト	541,261	522,928	△ 18,333	使用料・手数料	174,593	10,667	△ 163,926
給付にかかるコスト	0	0	0	其他収入	222	180	△ 42
減価償却費	0	0	0	純行政コスト	1,053,062	1,215,769	162,707

コストの詳細	収入の詳細
【人にかかるコスト】本事業に携わる職員の給料、手当、引当金等 【業務にかかるコスト】廃棄物収集・運搬に係る請負金等	【使用料・手数料】ごみ処理券手数料収入等 【其他収入】動物死体処理受託収入

4. 行政サービスの実績とコスト分析

取組実績	指標	単位	30年度 (実績)	元年度 (実績)	2年度 (実績)	3年度 (目標値)	3年度 (実績)	4年度 (計画値)
	燃やすごみの収集	回/週	2	2	2	2	2	2
	金属・陶器・ガラスごみの収集	回/月	2	2	2	2	2	2
	燃やすごみの収集量	t	51,268	51,662	52,343	50,155	50,401	49,402
	金属・陶器・ガラスごみの収集量	t	1,743	1,733	1,799	1,656	1,502	1,618



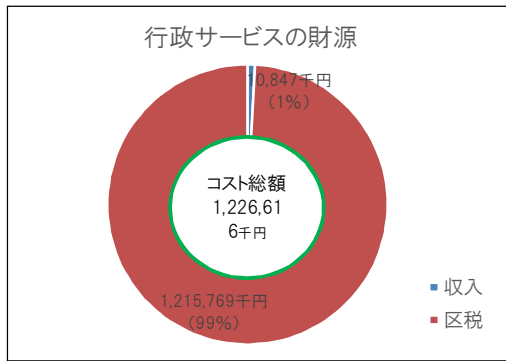
事業に携わる職員数

	元年度	2年度	3年度
正規職員	65.0人	62.0人	60.0人
再任用職員	0人	0人	0人
非常勤職員	0人	0人	0人
再雇用職員	0人	0人	0人
臨時職員	10.0人	0人	0人
会計年度任用職員	0人	27.0人	24.0人

資産(土地・建物)の分析

資産の概要		
資産(土地・建物)計上なし		
資産老朽化比率		(千円)
取得価格(A)	建物取得時に支払った額	—
減価償却累計額(B)	これまでの利用で償却した建物価格	—
現存価格(A-B)	現時点で残存する建物価格	—
資産老朽化比率(B/A)	当建物の老朽化の進み具合	—

5. 行政サービスの財源と単位当たりコスト



(円)

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト
ごみの収集量 (燃やすごみ、金属・陶器・ガラスごみの合計)	t	元年度	53,395	19,094
		2年度	54,142	19,450
		3年度	51,903	23,424
		28年度		
		29年度		
		30年度		

他自治体のコスト情報

【杉並区】事務事業名称:ごみ・し尿の収集・運搬
 ごみ(可燃、不燃、粗大)の収集量 100,664トン
 1トン当たりのごみ・し尿収集運搬コスト 16,247円
 (ごみ・し尿収集運搬コスト(事業費)1,635,431千円/区収集ごみ量100,664トン)
 ※ 杉並区HP掲載「令和3年度事務事業評価表」より

6. 公会計情報から見える課題と今後の取組について

令和2年度はコロナ禍の影響により家庭からの排出されるごみが一層増加。令和3年度にかけて解消されてきているものの、可燃ごみの収集量については目標値を超える結果となった。
 単位当たりのコストは令和3年度は手数料収入の充当事業を変更したため増加している。
 比較対象の杉並区は人口・ごみ収集量が本区の約2倍。
 行政コストの性質別割合では人にかかるコストが約57%を占めており、今後、技能系職員の多くが定年退職を迎え事業にかかるコストの割合が高まっていく中で、ごみ量予測に基づく効率的な収集運搬体制を構築するとともに、技能系職員の採用による知識・技術の継承を図っていく必要がある。

令和3年度（令和4年度実施）事務事業評価表【C表】

事業整理番号 0604 - 05

事務事業名	粗大ごみ収集	担当組織	環境清掃部	豊島清掃事務所
-------	--------	------	-------	---------

事業特性											
	事業開始年度	26年度以前	事業終了年度		計画／一般	計画事業	計画事業No.	5	3	2	1
	単独／補助	区単独事業	運営形態	全部業務委託							
事業を構成する予算事業	①	粗大ごみ収集経費			②						

政策体系（令和3年度基本計画）										
地域づくりの方向	みどりのネットワークを形成する環境のまち				政策	ごみ減量・清掃事業の推進				
施策	安定的で適正なごみ処理の推進				施策番号	5-3-2 関連する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標				
施策の目標	最終処分場の延命化や環境負荷の低減に向けて、安定的で適正なごみ処理を効率的に推進します。									

1. 事業の概要

事業の目的・概要	実施の対象（具体的に記載）	区民								
	事業の目的・期待する効果	家庭ごみの適正処理により、衛生環境の保全と環境負荷の低減を図る。								
	事業概要	区民が排出する粗大ごみの収集運搬を確実かつ効率的に行う。								
基礎データ（事業のための資産利用者等の情報）	年度末現在（翌年度4月1日現在）の住民登録者数 元年度:289,776人 2年度:286,596人 3年度:283,595人									
事業目標の達成状況	成果指標（事業目標の達成度）	指標	目指す方向性	単位	元年度（実績）	2年度（実績）	3年度目標（計画）	3年度（実績）	4年度（計画値）	
		① ごみの収集が円滑に行われており街がきれいに保たれている	↗	満足度が高い(%)	55	57.2	58	62.2	63	
		②								
	③									
指標の説明	①「協働のまちづくりに関する区民意識調査」より、「ごみの収集が円滑に行われており街がきれいに保たれている」の項目に対して「どちらかというと思う」と回答した数値（2年度までは「地域実態に応じたごみの効率的な収集・運搬業務が行われている」の項目に同様に回答した数値）									
未達成の状況	達成	未達成または一部未達成の理由								
事業の取組実績	3年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・住民が粗大ごみを申し込んでから収集されるまで、3年度当初は約1か月かかっていた。この待ち日数を最長で2週間程度になるよう収集車両を増車した。 ・粗大ごみに含まれる金属分を取り出して資源化している。 ・高齢者世帯等からの粗大ごみ運び出し依頼には直営職員が対応している。 ・品川・目黒・世田谷・中野・大田・杉並・葛飾・練馬・荒川区の9区を除く14区が共同で委託化して運営をしている。 								
	活動指標（事業の実施状況）	指標	目指す方向性	単位	元年度（実績）	2年度（実績）	3年度目標（計画）	3年度（実績）	4年度（計画値）	
		① 粗大ごみ収集件数	↘	件	108,661	116,205	115,000	117,215	121,000	
		② 粗大ごみ収集個数	↘	個	274,076	278,576	260,000	277,285	287,000	
③ 粗大ごみ収集量	↘	トン	2,597	2,582	2,680	2,428	2,653			
指標の説明	①年度間の粗大ごみ収集件数 ②同粗大ごみ収集個数									
未達成の状況	一部未達成	未達成または一部未達成の理由 家具等製品が安価、低寿命化していることに加え、コロナ禍での生活様式の変化等により粗大ごみは件数、個数とも想定以上の増加を続けている。								

2. 事業費の推移

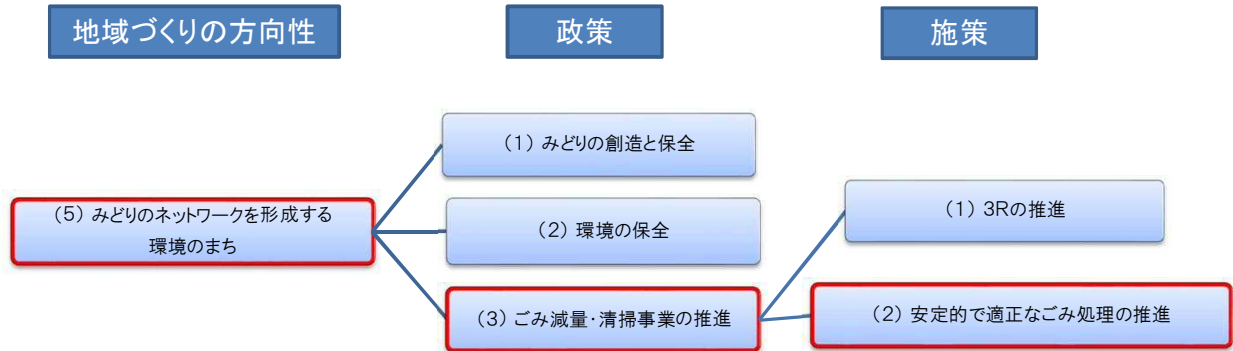
単位 （金額の項目：千円 人数の項目：人）	元年度	2年度	3年度			4年度			
	決算	決算	予算	決算	執行率	予算	増減（R3決算比）		
事業費	A	238,638	276,052	289,761	289,411	99.9%	347,492	58,081	
人件費	【正規（人数）】	(5.00)	(5.00)	—	(4.00)		(5.00)	—	
	【会計年度任用職員等（人数）】	(0.00)	(0.00)	—	(1.00)		(1.00)	—	
	人件費 B	B	42,500	42,500	—	37,600		46,100	8,500
事業費（人件費含む）	C=A+B	281,138	318,552	—	327,011		393,592	66,581	
財源内訳	国、都支出金	0	0	0	0		0	0	
	使用料・手数料	D	76,373	78,237	212,095	217,678		117,448	-100,230
	地方債・その他		48,479	67,614	77,666	71,732		91,885	20,153
	一般財源	E=C-D	156,286	172,701	—	37,601		184,259	146,658

3. 総合評価

(1) 成果と課題	【指標の達成状況(A)】 S、A、B、C、Dの5段階で評価 ⇒	B	根拠	民間委託により日曜収集も行っているが、粗大ごみ収集件数の増加により申し込み後の待ち日数が伸びている。
	※前ページの指標の達成状況及び下の確認事項の内容を踏まえ、齟齬がないよう評価及び根拠欄を記載してください。 ※「A」評価は、成果指標及び活動指標の両方が目標以上達成であることを基準として、「指標に表れない成果」を加味して評価してください。 ※「A」評価のレベルを大幅に超えた場合のみ「S」評価としてください。「指標に表れない成果」も考慮の対象です。			
① 指標に表れない成果				
粗大ごみの収集申し込みから収集までの「待ち日数が概ね一週間以内」であれば区民満足度がさらに高まると考えられる。令和3年度は一年度間の平均で申し込みから収集まで約3週間の日数を要していた。				
② 目標に対する成果状況を踏まえた課題				
申し込みから収集までの日数短縮につながる十分な収集車両台数を確保するとともに、物を大切に長く使用することの啓発にも力を入れていく必要がある。				
(2) 効率的な実施への意識	【効率的な実施への意識(B)】 S、A、B、Cの4段階で評価 ⇒	B	根拠	前年度実績を踏まえ、待ち日数短縮等区民サービス向上のための見直しを毎年行っている。
	※下の確認事項の内容を踏まえ、齟齬がないよう評価及び根拠欄を記載してください。 ※過去3年間に何らかの改善を行い、事業を大きく前進させる成果があった場合のみ「S」評価としてください。(小幅な改善は含みません。)			
	① 現状の実施状況及び実施手法に対する認識			
	事業の中に時代の変化や環境変化に合わなくなったものはあるか。	無	選択の理由	コロナ禍での生活様式の変化が粗大ごみの収集件数に影響を及ぼしている。
	直営や委託等の様々な手法を比較検討しているか。	有	選択の理由	民間委託により日曜収集も行い、直営職員により高齢者等の家屋からの運び出しを行うなど区民サービスの向上を図っている。
	(委託の場合)事業者見積を鵜呑みにせずコスト削減に努めているか。	有	選択の理由	可燃ごみの23区統一単価を基に、委託業者と緊密に連携して速やかに収集できる体制を整えている。
	執行率は適正か。 ※「適正ではない」場合はその対策も理由欄に記載。	適正	選択の理由	粗大ごみ件数・数量の増加に対応できるよう調整しながら事業を実施している。
	統合した方が効率的にできる可能性のある事業はあるか。	無	(有の場合) 事業名	
	② 「目標に対する成果の状況を踏まえた課題(3-(1)-②)」についての改善の取り組み			
	過去3年間に改善を行った。	はい	取組内容及び効果	収集までの待ち日数を短縮するため収集車両と搬出車両を増車した。
改善の予定	無	改善の予定がない理由		
改善の内容				
予算措置	有	「有」の場合	予算を伴わない実施との比較検討	
予算措置	無	「有」の場合	予算措置を伴う理由	
③ 事務改善(事務効率化)の余地				
効率化の余地	有	余地のない理由		
効率化の内容	収集車両1台当たりの積載目安を改善し、各現場で目安の確認をしながら能率を意識する仕様にする。			
予算措置	無	「有」の場合	予算を伴わない実施との比較検討	
予算措置	有	「有」の場合	予算措置を伴う理由	
(3) 必要性/優先度	【区が実施する必要性(C)】 S、A、B、Cの4段階で評価 ⇒	B	根拠	区民の不要な粗大ごみを収集・運搬し、適正に処理することにより公衆衛生を保全する。
	※下の確認事項を踏まえ、齟齬がないよう評価及び根拠欄を記載してください。 ※「区の他の事業より注力すべき事業」または「区民ニーズが大幅に増加している」の場合のみ「S」評価としてください。			
	① 区が実施する理由(複数選択可)			
	区の他の事業より注力すべき事業である。 ※部の主要課題のうち、特に優先すべき事業の場合チェック	○		
民間事業者等に同様のサービスがない。	法律の要請を受けて行う事業である。			
その他(理由)				
② 区民ニーズ				
区民ニーズを表す指標	有	指標番号(活動)	指標番号(成果)	
「有」「無」ともに記入	有	推移	推移	
区民ニーズに対する認識	廃棄物の収集運搬は公衆衛生に直接関係し、また全ての住民が利用するサービスのため安定的に実施すべき事業である。			
サービス利用者数	50名以上			
総合評価(D=A+B+C) ランク3				
今後の事業費予算要望(E)		増額	根拠	令和3年度末現在で粗大ごみ待ち日数は約1か月待ちとなっており、住民の生活に影響が出ているためさらに増車して対応する。
今後の事業の方向性(D+E) (現状の評価および施策評価を踏まえた評価)		A':改善・継続	Dの場合 → 終了の理由	
《上記判断を踏まえた所管課の認識》				
転居や家具の買い替え等の際に発生する粗大ごみを迅速に収集できなければ、住民の仕事や生活環境に影響が及ぶ。年度末現在で約1か月待ちの状態になっている粗大ごみ収集待ち日数を令和4年度早期に短縮させ、以降その日数を維持していくことが必要である。				

粗大ごみ収集経費

1. 事業の位置付け【基本計画(2016-2025)における位置付け】



2. 事業の概要

事業概要	単独・補助	区単独事業	事業開始年度	12年度
	運営形態	全部業務委託	他区の状況	23区中23区実施
これまでの経緯	<ul style="list-style-type: none"> 平成12年4月 清掃事業区移管 平成18年4月 粗大ごみ収集運搬業務委託 平成25年3月 金属系粗大ごみの資源化開始 			

3. 公会計情報

①貸借対照表

(千円)

勘定科目	2年度	3年度	増減	勘定科目	2年度	3年度	増減
資産	0	0	0	負債	0	0	0
土地	0	0	0	地方債	0	0	0
建物	0	0	0	その他負債	0	0	0
減価償却累計額	0	0	0	純資産	0	0	0
その他資産	0	0	0	純資産	0	0	0

資産科目の詳細	負債科目の詳細
資産計上なし	負債計上なし

②行政コスト計算書

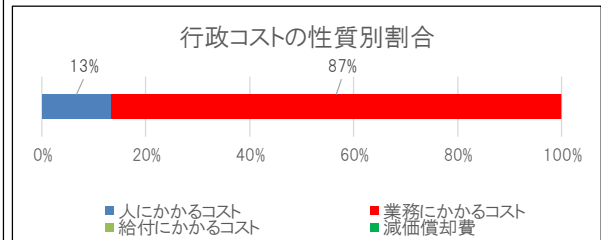
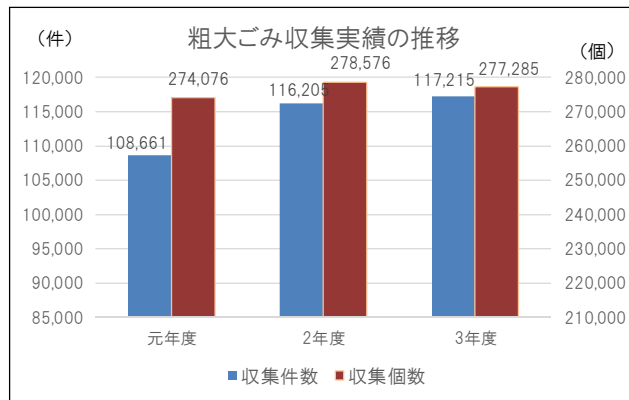
(千円)

勘定科目	2年度	3年度	増減	勘定科目	2年度	3年度	増減
コスト	323,352	334,153	10,800	収入	145,853	289,410	143,557
人にかかるコスト	47,300	44,742	△ 2,559	国・都支出金	0	0	0
業務にかかるコスト	275,978	289,325	13,347	使用料・手数料	78,238	217,678	139,440
給付にかかるコスト	74	86	12	その他収入	67,615	71,732	4,117
減価償却費	0	0	0	純行政コスト	177,499	44,743	△ 132,757

コストの詳細	収入の詳細
<ul style="list-style-type: none"> 【人にかかるコスト】本事業に携わる職員の給料、手当、引当金等 【業務にかかるコスト】粗大ごみの収集・運搬に係る委託料等 【給付にかかるコスト】粗大ごみ中継所の維持管理負担金 	<ul style="list-style-type: none"> 【使用料・手数料】ごみ処理券手数料収入 【その他収入】粗大ごみ中継業務に関する他区からの受託収入

4. 行政サービスの実績とコスト分析

取組事業の実績	指標	単位	30年度 (実績)	元年度 (実績)	2年度 (実績)	3年度 (目標値)	3年度 (実績)	4年度 (計画値)
	収集件数	件	102,963	108,661	116,205	115,000	117,215	121,000
	収集個数	個	259,074	274,076	278,576	260,000	277,285	287,000



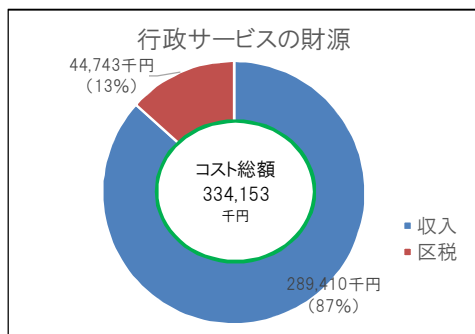
事業に携わる職員数

	元年度	2年度	3年度
正規職員	5.0人	5.0人	4.0人
再任用職員	0人	0人	0人
非常勤職員	0人	0人	0人
再雇用職員	0人	0人	0人
臨時職員	0人	0人	0人
会計年度任用職員	0人	0人	1.0人

資産(土地・建物)の分析

資産の概要	
資産計上なし	
資産老朽化比率	(千円)
取得価格(A)	建物取得時に支払った額
減価償却累計額(B)	これまでの利用で償却した建物価格
現存価格(A-B)	現時点で残存する建物価格
資産老朽化比率(B/A)	当建物の老朽化の進み具合

5. 行政サービスの財源と単位当たりコスト



(円)

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト
収集量	t	元年度	2,597	64,194
		2年度	2,582	68,745
		3年度	2,428	18,428
収集個数	個	元年度	274,076	608
		2年度	278,576	637
		3年度	277,285	161

他自治体のコスト情報

【杉並区】事務事業名称:ごみ・し尿の収集・運搬
 ごみ(可燃、不燃、粗大)の収集量 100,664トン
 1トン当たりのごみ・し尿収集運搬コスト 16,247円
 (ごみ・し尿収集運搬コスト(事業費)1,635,431千円/区収集ごみ量100,664トン)
 粗大ごみ量 3,773トン 粗大ごみ収集点数 520,983点
 ※ 杉並区HP掲載「令和3年度事務事業評価表」より

6. 公会計情報から見える課題と今後の取組について

区の面積が小さい豊島区では粗大ごみ中継に適した区有地等がないため選別、積替等の業務を委託業者の施設で行っていることに加えて、コロナ禍の影響で粗大ごみの収集件数が増加したことにより行政コストも増加傾向にある。
 行政コストの性質別割合では業務に係るコストが87%と大半を占めているが、大部分は委託業者への人件費と作業車両の借り上げ経費等の固定的な経費である。
 令和3年度は収集件数の増加する一方で、手数料収入の充当事業を変更したため、単位当たりのコストが大幅に減少している。
 粗大ごみ収集件数の増加により申し込みから収集までの待ち日数が長くなり不法投棄も増加しているため、収集車両を増やすなどして速やかに粗大ごみを収集できるよう対策を講じる必要がある。